

令和5年度 第1回足柄広域新モビリティサービス推進協議会 議事録

日 時 令和5年7月7日（金）15：00～

場 所 松田町役場 4階4AB会議室

出席者：杉本会長、梶田副会長、松木委員、小川委員、平田委員（代理：日下氏）、最上委員、福島委員（代理：山崎氏）、柳澤委員、内田委員、佐野委員、尾登委員、北村委員、梶田委員、武尾委員、小柳委員（代理：辻本氏）

欠席者：なし

事務局：政策推進課

鈴木英幸、鍵和田龍太、鎌田拓哉、鍵和田幸義

市川和男（まちづくりコーディネーター）

一般社団法人 ASHIGARA ON DEMAND 北村和士

オブザーバー：地域公共交通会議会長 古舘信生、大井町企画財政課長 湯川博之、

松田町観光経済課長 遠藤洋一

株式会社 SDK 総合研究所 横溝 雅央、林 八重

【会議次第】

- 1 委嘱状交付
- 2 開会
- 3 委員紹介
- 4 会長挨拶
- 5 報告事項
- 6 議事
 - (1) 松田町 AI オンデマンド交通実証実験について
 - (2) その他
- 7 閉会

【会議概要】

- 1 委嘱状交付
 - ・委嘱状を机上配布とする旨説明。新たな委員に委嘱状の交付を行った。
- 2 開会
 - ・事務局より開会のあいさつ
- 3 委員紹介
 - ・委員による自己紹介
 - ・AI オンデマンド交通実証実験受託者、一般社団法人 ASHIGARA ON DEMAND による自社紹介
- 4 会長挨拶
 - ・会長による挨拶

5 報告事項

- ・足柄広域新モビリティサービス推進協議会及び地域公共交通会議における AI オンデマンド交通に関する協議について、資料 1、添付資料 1、2 を基に説明

6 議事

(1) 松田町 AI オンデマンド交通実証実験について

- ・資料 2、添付資料 3 を基に説明
- ・以下、質疑応答

○委員

- ・通常運賃について、非会員ビジターが利用するときの料金と思うが、これは松田町民のうち非会員の方の運賃なのか、町民以外の観光客等も同じ運賃になるか。また、観光客の利用があるならば、観光シーズンだけではなく通年なのか。

●事務局

- ・町民か観光客かの区別はなく、値段を変えることも想定はしていない。

○委員

- ・現在、新松田駅に 2 社タクシー会社が入っているが、寄地区へ向かうタクシー運賃よりもオンデマンド交通の方が安く、乖離が出てきてしまうことについてはどう考えているか。

●事務局

- ・この案をもって確定させるのではなく、交通事業者と協議を進めていきたい。

○委員

- ・ミーティングポイントについて、どのポイントからどのポイントへも乗降できることよいか。配布された前回の公共交通会議の資料において、時間帯によって特定の区域ではバス停までのみ運行し、直接運行しないポイントがあると記載があるが、そのあたりはどうか。

●事務局

- ・通勤通学時間帯以外については、運行に制限を設けない予定。時間帯による区域分けについては、交通事業者と調整を進めている。区域を跨いでの運行を、時間帯によって控えるなどの調整を進めている。

○委員

- ・区域というのは、大字単位で区切っているのか、それ以外に別に設定しているのか、そのあたりも調整中ということか。

●事務局

- ・その通り。

○委員

・単純な話として、ここのポイントに迎えに来てくださいと連絡すると、バスが迎えに来るということでよいか。

●事務局

・その通り。

○委員

・タクシー業者等に連絡しても時間が取れないという話があるが、来られないということは基本的にはないと思ってよいか。

●事務局

・オンデマンドバスは乗り合いが基本的な考え方。他の予約状況によって近くを走っている車両があればすぐ来られるが、遠い場所を走っていて時間を要する場合でも、オペレーターやアプリで到着予定時間をお知らせする。

○委員

・前もって前日などに予約を行えば、基本的にはその時間に来るということでよいか。

●事務局

・予約状況によるところはあがるが、空いていればその通り。

○委員

・病院に定期的に通っている方がタクシーを呼んでもなかなか指定した時間に来ない、予約できないという話がある。このあたりは AI のシステムで改善されるのかと思いついた。

○会長

・通院される方が、同じ地域で同じ時間帯に3、4人いるとすると、AI によって最短ルートが作成され、乗合によって運行されていく。遠くに車両がいる場合などは、迎えまで時間がかかる場合がある。

・今回、社会実験として、そのような場合も含め、どのような利用がされていくかを見る意味で行う事業であると理解している。

○委員

・事業が目指すところとして、実験で終わるのではなく持続可能なものとしての目標があるが、定期的な事業の見直しが必要ではないか。半年などのスパンで見直しをしなければ持続可能なものにならないのでは。

●事務局

・今後、本協議会において事業計画や実証実験の結果等を報告し、指標を設定したうえで PDCA サイクルを回す場として継続させたいと考えている。

○委員

・先ほど時間帯と運行区域の話があったが、その話に加えて、通勤通学以外の時間帯において、路線バスの運行状況によって直行か乗り継ぎか判断するということだが、他のオンデ

マンドバスを行っているところで、そのようなことを行っているのは聞いたことがない。
どのように行っていくのか。

●事務局

- ・システム会社と実現可能性を検討しているところ。

○委員

- ・本事業の持続可能性に関連して、内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金を利用している事業であるとのことだが、ずっと利用できるわけではない。今後フィーダー補助等の利用も含め、収入の確保についてどのような検討をしているのか。

●事務局

- ・収入のベースとなるのは、運賃の収入に加え、車両内広告による収入を確保して持続性を担保していく。それでも賄えない部分については、案内いただいたフィーダー補助等の利用を検討していく。

○委員

- ・乗り合いについて、他のポイントに寄りながらの運行となると、バスに乗った方が早く目的地に着くケースが考えられるが、その場合、利用者は分かるのか。

●事務局

- ・システム会社と協議中であるが、予約の際に、その時の予約状況に応じた到着予定時刻が案内される。

○オブザーバー

- ・今回の協議会の内容・決定を地域公共交通会議に諮り、承認を得たうえで確定されるということでよいか。

●事務局

- ・本協議会において運行計画等を定め、地域公共交通会議において承認をいただき、協議を調べていくという流れになる。

○オブザーバー

- ・今回の協議会内容、運賃や運行計画などはあくまで案であり、最終的には地域公共交通会議で決定されるということよいか。

●事務局

- ・その通り。

○委員

- ・資料に収支計画がないが、あれば提示していただきたい。実証実験なので関係ないということか。

●事務局

- ・昨年度に公共交通会議にて示した収支計画はあるが、最終的な運行計画を踏まえた収支計画を作成中。
- ・本日いただいた意見に対する回答も含め、地域公共交通会議の前に皆さまに書面にて報告することとしたい。

○委員

- ・運行に関する申請関係については、標準処理期間があり、地域公共交通会議の協議が調っている場合は一ヶ月で完了することとなっているが、書類不備や是正等で一ヶ月以上かかる場合もある。また、ミーティングポイントに大井町が含まれているため、大井町長又は大井町地域公共交通会議の合意を得ておく必要があると考えられるので、大井町とも調整を図っていただきたい。

●事務局

- ・承知した。

○委員

- ・バス・タクシー事業者がこの事業によって収益が悪化すると、バス、タクシー事業として持続存続ができなくなる可能性がある。民業を圧迫しない形で事業を進めていただきたい。

●事務局

- ・承知した。

(2) その他

- ・なし

7 閉会

- ・副会長による閉会のあいさつ

以 上